

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

令和3年 学校教育だより

September **9** 第350号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711 (内線622)



わぁ～きれい！ 一忍野八海 5年生林間学校一

写真提供／鶴瀬小学校

将来

富士見特別支援学校 高一
植波 結斗

高校生になって少しだけ
将来の形が見えてきた

社会人になって

いじめにあわないか

仕事がうまくできるか

いろいろ不安はあるけれど

スマホを買いたい

一人暮らしをしたい

会社内に友達を作りたい

という目標がある

だから

高校生活の三年間で

もっともっと自信をつけたい

た道徳の展開

指導者 本郷中学校 教諭 大島 吾一

人とつながり、自分を見つめる
ことのできる道徳教育

本校では、昨年度から、「自己を見つめ、よりよい生き方を考えることができる心豊かな生徒の育成」を主題とし、考え、議論する道徳“の授業について研究に取り組んでいます。本校では以前から学年内で道徳科の時間割を揃え、教材及び指導法を共有し着実な授業の実施を行うとともに、人と人とのつながりを大切に、自分自身を見つめることのできる授業に努めています。

そして、今年度からGIGAスクール構想として、一人一台の学習用端末を配備していただきました。ICT環境を活用し、生徒一人一人が自分の生き方について考えを深める道徳科の授業を展開できるように取り組んでいます。ここではその取組と考察について紹介します。

教材の提示

授業の導入では、教室前方に設置されている大型モニターに提示しています。ある授業では、まど・みちおさんの詩「ノミ」を画面に出すことで、クラスの全生徒の視線が一つに集まり、これから同じ課題について考えていくという雰囲気をつくり出すことができます。また、教材の物語の登場人物紹介なども前方モニターに示し、教材への理解を深められるようにしています。また、アンケート結果などを提示するときにも役立てて

おり、グラフ化することでの生徒も一目で結果がわかることができます。特に「Microsoft Teams」および「Microsoft Forms」および「Microsoft Forms」を使用することで、リアルタイムにアンケートの実施と結果のグラフ表示が可能となります。モラルジレンマ教材では質問に対して二つの選択肢を与え、生徒の回答をグラフ化して提示しました。それにより、学級全体の考え方が簡単かつ分かりやすく共有することができます。

ワークシートの共有

タブレット端末のアプリ「ミライシード」の「ムーブノート」機能を使い、個人のワークシートに記入した内容を撮影し送信することでクラス内の考えを共有することができます。提出したワークシートの画像は生徒が自由に閲覧することができ、班活動といった席の近い人や普段からよく話す人だけでなく、席の離れている人、日頃はあまり話すことのない人など、クラス全体の多様な考え方が感じ

全体指導の際の活用

生徒がより深く考えるツールとして、「ミライシード」の画面共有機能を活用します。

方に触れることができます。実際に「ムーブノート」を使用して感じたのは、個人の端末があることで、自分のペースでじっくりとクラスメイトの考えを見ることができるといことです。この一人一人が集中できる時間を確保することで、生徒が自分と向き合い、考えを深めることができます。



西中学校 3年

西谷 莉菜

今年の体育祭はコロナ禍での開催となりました。中学校生活最後の体育祭であり、出場種目や応援の練習など「今年で最後なんだ。」と1日1日を無駄にせず一生懸命取り組んでいきました。本番が近づくと仲間との絆が深まり、「早く体育祭をやりたい。」と

体育祭の思い出

いう気持ちと、「仲間と過ごす時間が終わって欲しくない。」と願う気持ちが入り乱れた事を覚えています。そしていよいよ本番。練習どおり力を発揮出来た人もそうでない人もいたかもしれませんが、皆が一つの目標に向かって頑張りました。私の団は優勝する事ができ、一生忘れられない思い出が出来ました。

皆有難う。感謝！



わかる授業 二 中学校 道德教育 二

ICTを活用し

提出された生徒の意見の中から考えを深めるきっかけとなるものをピックアップし、クラス全員の端末に表示します。その結果、多くの生徒が考えるポイントについて理解することができ、話し合いをスムーズに進めることができます。同じ画面を見て課題について全員で考える場面と、先述した個人で端末を開き自身で考えを深める場面とを、活動に応じて使い分けることで、より効果的にICTを活用して考えを深めることができます。



さらなる効果的な使用のために
一人一台の端末を使用し

特別支援教育

誰もが過ごしやすい学校へ

勝瀬中学校 梶山 眞理子

勝瀬中学校では、配慮が必要な子どもも、そうでない子どもも、互いを思いやりながら生活できる学校を目指して特別支援教育を進めています。本校では次の二つのことを行っています。

一つ目は「環境のユニバーサルデザイン」です。教室前面をシンプルにデザインし生徒が授業に集中しやすいようにしています。その他にも、教室後方の黒板

上手にできた時は一緒に喜びながら練習していました。心を一つに成果を出すことができました。クラスのみならず、学年の子どもにとっても、学級の子どもにとっても、良い思い出になり、互いのことを思いやる経験になったと思います。

他者との関わりを意図的に増やすことで、自然と「子どもたちの心が育つ」ようになると私は思っています。勝瀬中学校の全員が、優しさを持つ人に育ってほしいと願っています。



道德科の授業を行っていく中で、注意すべき点がいくつかあります。一つは、生徒の集中を途切れさせないということです。次にワークスペースの確保です。さらに、グループ化やグラフの提示などを授業展開する中でスムーズに行うことができるように教師のICTのスキルアップの必要性も感じています。

終わりに

ここまで本校でのICTを活用した道德科の実践を述べてきましたが、一人一台端末という恵まれた環境の中で、端末を学びのツールとして効果的に使用できている生徒の順応性には驚かされました。

そして、やはり道德科の授業で必要なのは人と人とのつながりであると再認識できました。ICTを活用することによって効率的、効果的な授業展開ができましたが、グループで話し合ったり、顔を合わせプリントを回覧したりするときの生徒の生き生きとした表情が印象的です。今後も、従

来の方法とICTを用いた方法を効果的に組み合わせ、生徒とともにわかる道德科の授業をつくっていききたいと思っています。



指導・講評

本郷中学校長 上堀 護

本校では、研修主任と道德教育推進教師(大島教諭)が中心となって全職員で研究に取り組んでいます。今年度は教頭の指導を受けながら、生徒一人一台端末をコミニケーショントールとして最大限活用し、「考え議論する道德」を進めています。

若手の活躍に大いに期待しています。

協働学習に向けた取り組みと期待

針ヶ谷小学校 保護者 安田 求

生まれて初めて靴を履いたものの、どうしたらよいか分からず立ちすくんでいた娘。そんな彼女もこの春から小学生。

遊びや生活の中で生きる力の基礎を育んだ幼児期の教育から、社会に出てからも生かせる知識や経験を積む教育へ、これからは協働して物事を成し遂げること、つまり、コミュニケーション力がより重視されると考え、四つの視点を

もって私は娘と接しています。一つ目は子どもの目線に

あわせて、二つ目は物事の決定を彼女自身にさせること。三つ目は学校での出来事を一緒に話すこと。最後にお友達との遊びを

沢山すること。この四つが大切だと考えています。

子どもの目線にあわせないと話をすると、分からないことを沢山質問されますが、どう解らないかを私達に説明する力が養われます。決定を自身にさせることで、主体的に



物事を考える癖ができます。今日あったことの説明は、言葉で表現する力を伸ばすことができます。また遊びの中でお友達とお話ししながら物事を進めてくことで、協働学習の基礎を学ぶことができます。そして、これからの小学校生活では、友達と考えや思いを交わし、物事を進めていく経験を沢山してほしいです。あの子はどうしてこう考えるのか、どうすればよい方向に進むのか。意見が異なる時に彼女はどの乗り越えるのか。沢山の経験を積み、深く他者を理解できるようになってほしい。そう私は考えています。



ICTを文房具に

勝瀬中学校

昨年度から、本校ではICTの導入に向けて準備を進めてきました。コロナ禍の中、三年生を送る会もTeamsを用いて、体育館の様子をリアルタイムで視聴し、先輩の思い、後輩からの思いを共有することができました。また、玄関にモニターを設置しており、本校の生徒が活躍している様子や、予定などが見やすく提示され、評判もよいです。今年度に入って研修も増え、

様々な場面でICTを活用することが増えてきました。授業ではプレゼンテーションなどの資料を手元で見たり、考えを深めるときや、意見共有、課題の配布に端末を使用したりするなど、各教科で授業に工夫がなされ、とても活発に、そして身近なものになってきています。

まだまだ試行錯誤が続きますが、いろいろな可能性を探って、使い方を工夫してい

たいです。



地域で子育て 褒めて育てる大切さを実感

勝瀬小学校 保護者 三島 万奈

我が家には2人の息子と娘

があり、親子で付き合える同世代のご近所友達に恵まれて、賑やかな日々を送っています。

そんな中、突然訪れた昨年度の臨時休校。どこにも行けず、思うように遊べない子どもたちにとって救いだったのが、近所との関わりでした。

核家族化が進む現代で、皆が皆家にいるのが当たり前、そんな環境はこのコロナ禍でなければ実現しなかったと思

います。

何となく外に出た年齢もバラバラな子どもたちが、限られたスペースで遊ぶ、もちろんルールの中で。でも私は厳しいルールは設けず、敢えてルールにゆとりを持たせる事にしました。ダメと言うのは簡単ですが、「自分たちで考え判断してほしい」そうすることで生きる力を皆で育んでほしいと思ったからです。

そのため親以外の大人から

はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

叱られる事も時にありました。子どもたちで「いい塩梅」を模索し、上級生や下級生との関わりも学んだ日々でした。中でも印象的だったのは「〇

君のお父さんが『すごいね』って言うてくれたよ」と褒めてもらえた事を嬉しそうに報告してくれたことです。まさに地域で子どもを褒め育てる、そんな心強さを肌で感じる事ができました。

地域との深い繋がりは、頼れる大人や友達が周りにいるという安心感となつて子どもたちの生きる力になると信じ

ています。そして、自分が大きくなつた時に、今度は周りの子どもたちにそんな力を与えられる大人になつてほしいと願います。



ふじみ野小 ロボットと未来研究所

ふじみ野小学校

本校では、STEM教育を充実させるため、様々な取り組みを実践しています。STEMとは、科学、技術、工学、数学の教育分野を総称した言葉です。

今年度からは全児童に端末が配布されました。低学年から高学年までスクラッチなど様々なアプリケーションを活用

用し、学びを深めています。STEM教育がねらいとしているところは自発性、創造性、判断力、問題解決力を養うことにあります。

普段の授業においてICT機器を活用していくことを通して、このような能力を高められるようにしていきたいと思っています。



教育課題特集

生きる力を

地域の中で

南畑小学校

学校応援団コーディネーター 秋元 節子

「あそび隊、たのしみにしてるよ。」と声をかけてくれる子がいる。コロナ禍で、今はお休み中の地域子ども教室。毎週月曜日に子どもたちと遊ぶようになって十五年ほど経つ。そのお陰で、子どもたちの顔と名前がわかるようになり、どの子もかわいくてしかたがない。

六年間、ずっと私のそばから離れず、いつも手をつないでいた男の子がいた。今は立派な中学生だ。本屋ではつたり会って声をかけてくれた女の子は、嬉しそうに部活のことを話してくれた。以前より目が輝いていて嬉しかった。

また、私が気が付かないくらい綺麗になった子たちに声をかけられ、名前を聞いて「あら、久しぶり。」と気づくこともあった。

たくさん子どもたちが成長していく姿を見守っていくことができるなんて、とても幸せに思う。

私にできることは、ときに寄り添ってみたい、そつと見守っていたりすることぐらい

だけれど、いつまでも、みんなのことを応援していきたい。楽しい思い出は、形こそないけれど、いつか子どもたちの心の中で宝物になつていく、たくさんの人と関わりながら、楽しい思い出ができますように。

子どもの成長は早いもので我が家の息子は三十才に。結婚を機に家を出たのだが、近頃、実家に戻る計画を立てているとのこと。心の中で、私はそれを待っていた。

いつでも帰つておいでね。地域の人も「おかえり」と言ってくれるから。





2年振りの開催！！「みずほハッピーワールド」

2年振りに、みずほハッピーワールドが開かれました。感染予防の約束を守りながら、楽しい時間を過ごしました。

みずほ台小

まだ、残暑厳しい日が続く中、一年間で一番長い二学期が始まりました。

二学期は、運動会や音楽会など行事が盛りだくさんの学期です。コロナ禍での生活になるので、今後も学校において手洗い・うがいの励行など、感染対策を徹底し、子どもたちが安全に過ごせるように努めていきます。また、生徒一人一台端末を効果的に、授業で活用してまいります。

コロナ禍で以前のように、地域そして、保護者の方に学校へ足を運んでいただく機会が少ない分、この学校TODAYで子ども達の生き生きとした姿をお伝えしていきたいと思えます。



富士見市聖火リレーセレモニー

東京オリンピック聖火リレーのセレモニーで吹奏楽部が参加しました。大舞台上で演奏を披露しました。

西中



工夫を凝らして、withコロナの運動会

今年は3部に分けて運動会を行いました。ライブビューイングも行い、各教室から競技の様子を見ることができました。

関沢小



「凡事徹底」諏訪小学校の合言葉

当たり前のことを当たり前。「凡事徹底」を合言葉にしています。あいさつや清掃ができている児童は校長先生から表彰されます。

諏訪小

大人も読みたい子どもの本

富士見市立中央図書館 伊藤由紀子

コロナ禍となり、ビブリオバトルがでなくなつて一年半が過ぎました。もしも、ビブリオバトルができたなら、バトルとして紹介したい本を書きたいと思っています。

小学校低学年へは、『はるとあき』

(斎藤倫・うきまる / 作 小学館)です。四季を擬人化した絵本で、あきに会ったことのないはるが、手紙を書くことを思いつくところから始まる物語です。春と秋の往復書簡を通じて、季節の素晴らしさや相手を思いやる心など、たくさんの気づきをくれる本です。

中学年へは、『しあわせなハリネズミ』

(藤野恵美 / 作 講談社)です。友だちがいなくても一人で平気なハリネズミ。思ったことをすぐに口に出してしまつて、言葉もチクチクしています。そんなハリネズミが、ある日何の役にも立たないドロダングを作るモグラと出会うことで、物語の捉え方が変わり成長していく物語です。

誰かと関わることは、面倒なことも増えるけれど、ひとりであるより、楽しいことや幸せなことも増えると教えてくれる本です。

高学年から中学生へは、『西の魔女が死んだ』(梨木香歩 / 著 小学館)です。中学校へ入ったばかりのまいは、周りに



東 中

勝利に向かって駆け抜けろ！

今年の体育祭も縮小され、午前中でのみの開催となりましたが、その分、どの団も集中し、勝利に向かって一丸となることができました。



水 谷 東 小

伝えよう。クラスの雰囲気！

体育館で、オンライン授業参観を行いました。クラス全員が映るように、カメラワークを工夫しました。



勝 瀬 小

クラス対抗ドッジボール大会

本校ではクラス対抗でドッジボール大会を行っています。クラスの団結を高めるために、朝会でクラスのいきごみを発表して、大会に臨みます。



針 ヶ 谷 小

野さいづくりのひみつをさぐる

ゲストティーチャーを招いて、農家のお仕事についてお話を聞き、作っている方の思いを学ぶことができました。

学 校



勝 瀬 中

「勝瀬中ミニギャラリー」

職員室前の一角にあり、美術展入選作品等が展示されています。各々個性あふれる作品がライトに照らされ、堂々たるたたずまいです。

なじめず学校へ行くことができなくなっ
てしまいます。そんな自分のことを「感
受性の強いあつかいづら子」と母親が
電話で話しているのを聞いて、もつと傷
ついてしまいます。まいは、早めの夏休
みということで、大好きなおばあちゃん
の家へエスケープします。イギリス人の
おばあちゃんは、魔女修行と称して、毎
日色々なことを教えてくれます。おばあ
ちゃんは、どんなまいも、まるごと受け
とめてくれます。

自分のことをわかってくれる誰かが一
人でもいれば、人は強くなれるし、立ち
直ることができると思わせてくれる本で
す。そして最後の答えは自分で決めるこ
との大切さを教えてくれます。大好きな
この本を、今から二年前に諏訪小学校の
図書委員さんの前で、バトラーとして発
表しました。発表の五分間はとても緊張
しましたが、みんな真剣に聞いてくれて、
チャンプ本に選ばれた思い出の本でもあ
ります。その時のみんなも今は中学二、
三年生です。みんなは、どんな中学校生
活を送っているでしょうか。

人生は、いろいろなことが起こります。
すぐれた児童文学は「生きてごらん大丈
夫」と背中を押してくれます。昔、子ど
もだった大人もです。是非、そんな本と
出会えますように。そのお手伝いをでき
ることが図書館で働く私の一番の喜びで
す。

教育委員会だより

○令和3年度学校総合体育大会
県大会・関東大会・全国大会 結果

西中学校 男子バレーボール
県大会優勝 全国大会3位

富士見台中学校 女子陸上 砲丸投げ
川上 風花（3年）
県大会1位 関東大会4位
全国大会出場

富士見台中学校 女子体操 個人総合
隈川 実里 (2年)
県大会5位 関東大会出場

勝瀬中学校 水泳 女子50m自由形
神谷 奏音 (3年)
県大会9位 関東大会出場

勝瀬中学校 水泳 女子100m自由形
神谷 奏音 (3年)
県大会8位 関東大会出場

勝瀬中学校 卓球 男子団体
県大会優勝 関東大会出場

勝瀬中学校 卓球 男子シングルス
吉田 遥斗 (3年)
県大会2位 関東大会出場ベスト16
全国大会出場

勝瀬中学校 卓球 男子シングルス
萩原 嵩巳 (3年)
県大会7位 関東大会出場

東中学校 水泳 男子400m自由形
渡邊 瑛太 (2年)
県大会6位 関東大会4位

東中学校 水泳 男子1500m自由形
渡邊 瑛太 (2年)
県大会5位 関東大会出場

西中学校 水泳 女子400m自由形
守友 陽花莉 (3年)
県大会2位 全国大会出場

西中学校 水泳 女子800m自由形
守友 陽花莉 (3年)
県大会1位 全国大会出場4位



一致團結

は言えませんでした。

スポーツ大会は最高学年として頑張ってもらいたいと思いつつ、競技の長縄の記録も伸びず悩む日々が続きました。記録を伸ばすためには、

そんな中、休み時間に自主的に練習をする子どもが出てきました。並び方や回し方について、互いに意見を出し合いながら練習に取り組んでいました。そこに一人、また一人

番の仕事を協力して行う姿、困っている友達に優しく声をかける姿、「一致団結」しようとする気持ちの表れだと感じました。

スポーツ大会当日、長縄の

鶴瀨小学校 教諭 松木 雄太



六年生がスタートしておよそ二か月。スポーツ大会をひかえ、子どもたちの関係は少しずつできているものの、まだお互いに十分信頼し合ってクラスがまとまっていると

どうしたらよいか、クラスで話し合うことにしました。

そこで子どもたちの様々な思いが出されましたが、うまく話し合いはまとまりませんでした。どうしたらいいのか……

と練習に加わり、大きな輪となり練習を重ねる中で、それぞれの気持ちが一つになっていくのがわかりました。それは、練習以外の場でも見られるようになりました。係や当

てうれしく思いました。
心をつに「一致団結」し
て「六年生は、最高の一年だ
った。」と思えるように、
これからも成長し続けていっ
てほしいと思います。

編集日記

今年の夏休みは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため八月末まで延長となりました。様々な制限があり、自由に外出することも難しい中、自宅で過ごすことが多い夏休みではなかろうか。暑い日が続いたり、梅雨のような寒い日が続いたり。九月に入り、校門で元気な姿の子どもたちを迎え、短時間でしたが、二期の始業式を行うことができて、ほっとしています。さて、この夏休み、TOKYOオリンピック・パラリンピックが開催されました。普段、見ることのない競技もたくさんテレビで中継され、初めて知る競技の面白さに夢中になっていました。それと同時に、十代の若い選手たちがたくさん出場し活躍していることに、驚きやバリンピックにもかかわらず、プレッシャーに負けず、自分の力と発揮できる強さに、感じしました。そんな中、バリンピック水泳で、銀メダルを獲得した山田美幸さんの言葉が忘れられませんでした。彼女は、生まれながらに両腕がなく、両脚にも障がいがあります。しかしながら、自分の障がいについて、「ないことを嘆くより、『ある』ものを徹底的に突き詰めてきた」と話しています。その言葉を聞きたくさんの制限がある毎日ですが、「〇〇ができない」と嘆くのではなく、「〇〇ができる」ととらえて、できることに精一杯取り組みたいと思います。今、目の前にいる子どもたちの可能性は、無限大です。将来彼女たちがどのように、富士見市で様々な分野で活躍するかもしれないと思うと、楽しみです。（辻口）